

2026年3月期
第3四半期

決算補足 説明資料

2月6日



anicom

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード：8715

全体目次

1

第3四半期 決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

1 第3四半期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因
(対前年同期差分析/26年3月期3Q実績および4Q見込)
5. 貸借対照表 サマリー





1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

経常収益

54,995 百万円

前年同期比10.6%増(5,288百万円増)
うち、保険引受収益は前年同期比9.8%増(4,241百万円増)

のれん償却前 経常利益

2,422 百万円

前年同期比39.1%減(1,557百万円減)

経常利益

2,228 百万円

前年同期比41.2%減(1,564百万円減)

順調な新規契約獲得と周辺事業の拡大を図りつつ着実に増収
他社契約移管コストおよび事業投資の発生で減益ながら、計画通りの進捗

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は20.6万件、同保有契約件数は137.4万件(9.1%増)と更に伸長
- 保険事業以外の、その他経常収益は6,056百万円(12.3%増)と拡大
- 資産運用収益は1,190百万円(47.6%増)となり、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、引き続き前年を上回る進捗

■ 経常利益

- アクサダイレクト契約移管コストおよびJARVIS Tokyoへの投資により減益となりつつも、計画通りの推移

2. 損益計算書 サマリー



(百万円)

	25年3月期 3Q	26年3月期 3Q	対前年同期比 増減率
経常収益	49,706	54,995	10.6 %
保険引受収益	43,505	47,747	9.8 %
資産運用収益	806	1,190	47.6 %
その他経常収益	5,394	6,056	12.3 %
経常費用	45,913	52,766	14.9 %
保険引受費用	30,892	34,623	12.1 %
・正味支払保険金	(25,117)	(27,681)	10.2 %
・損害調査費	(848)	(882)	3.9 %
・諸手数料及び集金費	(3,874)	(4,326)	11.7 %
・支払備金繰入額	(240)	(775)	222.2 %
・責任準備金繰入額	(811)	(957)	18.0 %
(うち未経過保険料)	(1,155)	(1,314)	13.8 %
(うち異常危険準備金)	(△ 344)	(△ 357)	- %
資産運用費用		24	%
営業費及び一般管理費	13,003	15,767	21.3 %
その他経常費用	2,017	2,350	16.5 %
のれん償却前経常利益	3,979	2,422	△ 39.1 %
経常利益	3,793	2,228	△ 41.2 %
純利益	2,574	1,426	△ 44.6 %



2. 損益計算書 サマリー

(参考)アニコム損保 保険重要指標

	25年3月期 3Q	26年3月期 3Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
既経過保険料	42,551	46,628	9.6%
発生保険金(損害調査費含む)	26,207	29,339	12.0%
E/I損害率①	61.6%	62.9%	1.3pt
既経過保険料ベース事業費率②	31.9%	33.9%	2.0pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(9.5%)	(9.8%)	(0.3pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	93.5%	96.8%	3.3pt

3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

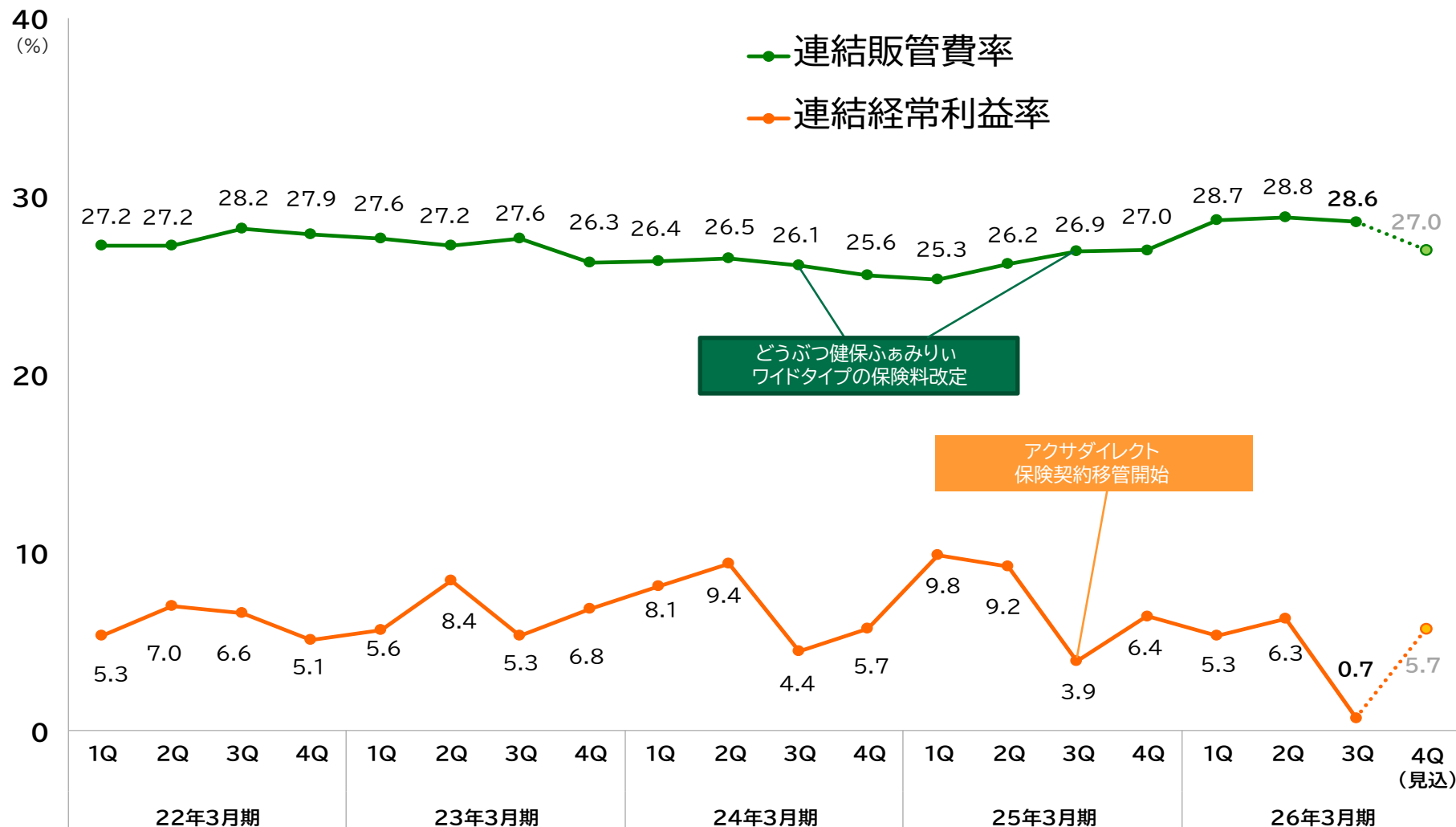
決算概要

進捗状況

APPENDIX



※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分析)

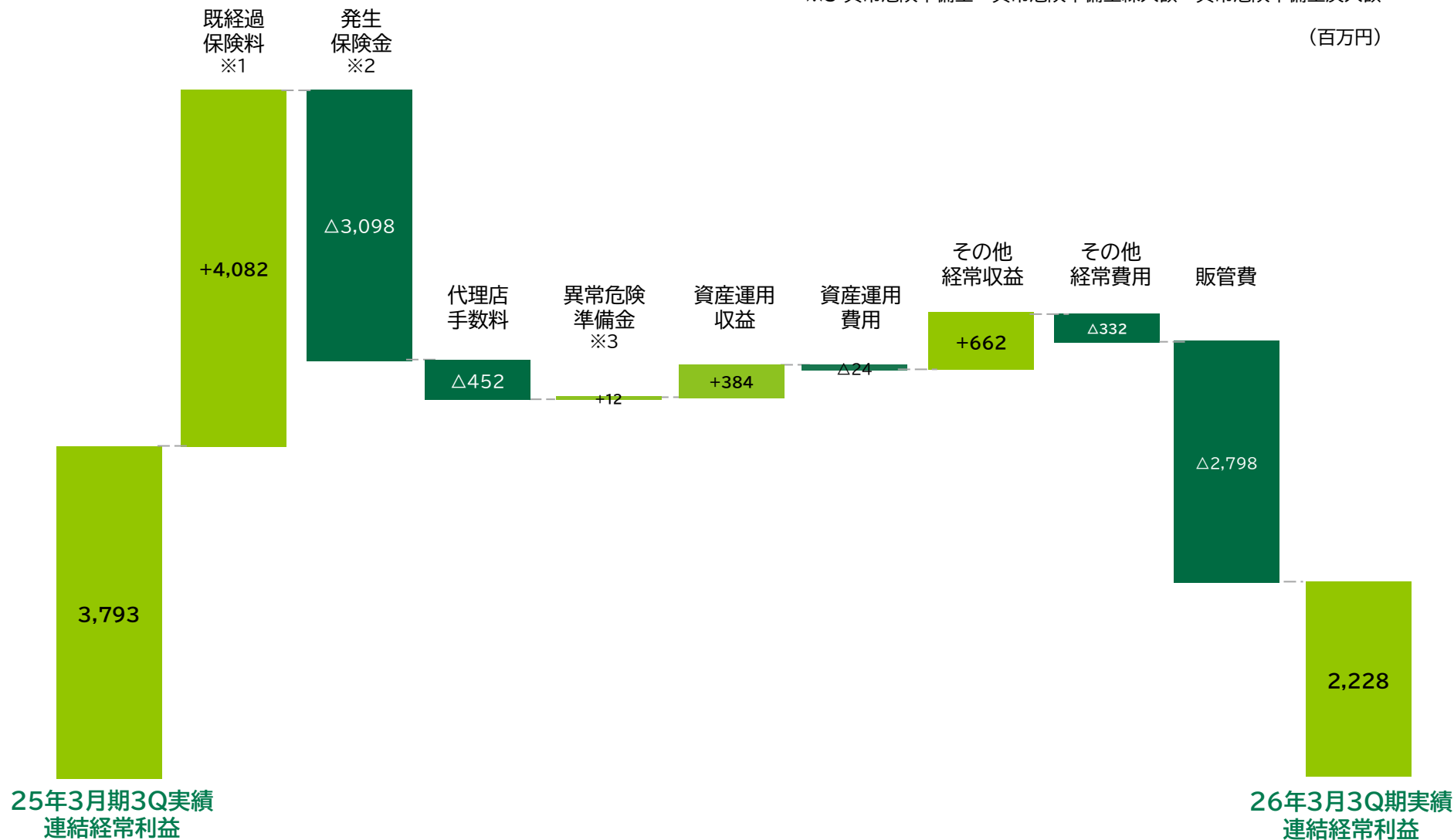


※1 既経過保険料＝保険引受収益－普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金＝正味支払保険金＋支払備金繰入額

※3 異常危険準備金＝異常危険準備金繰入額＋異常危険準備金戻入額

(百万円)

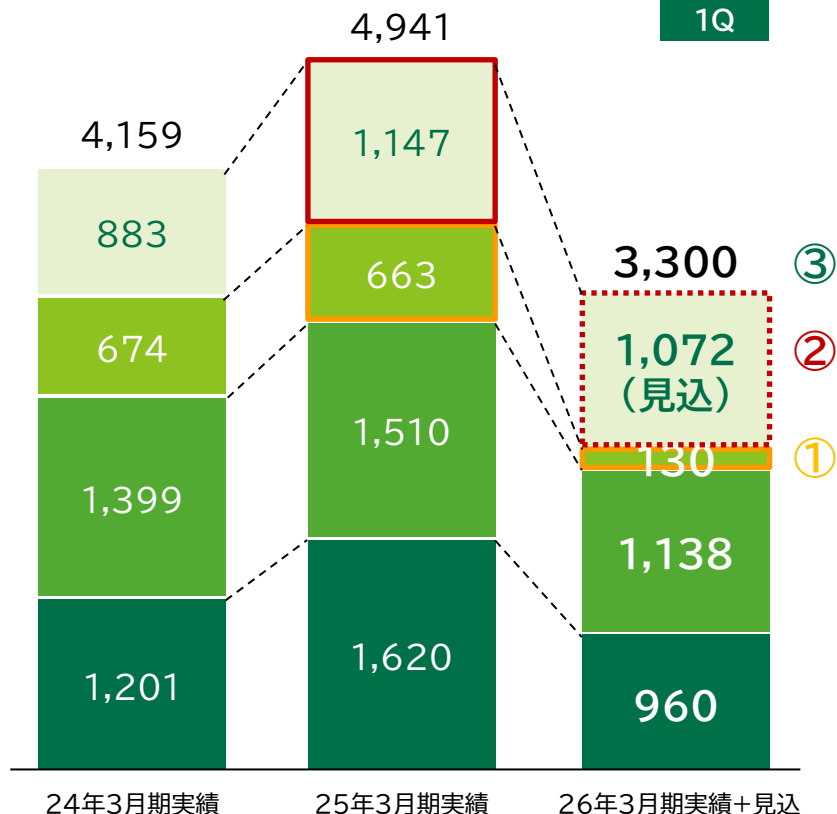
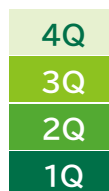


4. 経常利益の増減要因(26年3月期3Q実績および4Q見込)



四半期別経常利益推移

(百万円)



① 前年度3Qに対する主な要因

インフレ影響による損害率の上昇、アクサダイレクト契約移管手数料の発生、JARVIS Tokyo開業に伴う費用の発生により利益額が減少

② 前年度4Qに対する見込

損害率の上昇に対して、アクサダイレクト契約移管手数料の発生が無くなることに加え、業務効率の向上による経費圧縮、計画を上回る資産運用益が経常利益を押し上げ



③ 26年3月期見込

前年度3Qに対して利益額が減少しているものの、本年度の4Qは前年度4Qと同水準の利益額を見込むことから、通期計画である経常利益33億円は達成可能な水準

5. 貸借対照表 サマリー

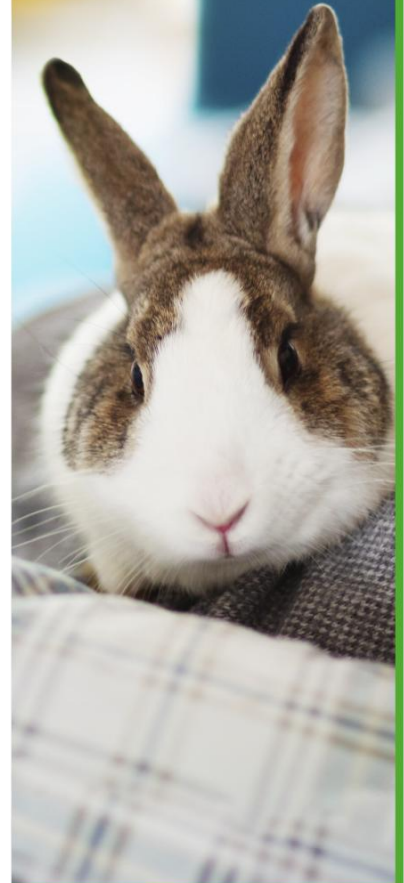


(百万円)

	25年3月期末	26年3月期 3Q	対前年末比 増減率
資産合計	72,494	73,478	1.4 %
現金及び預貯金	26,460	21,361	△ 19.3 %
有価証券	29,430	31,665	7.6 %
固定資産	7,014	10,632	51.6 %
その他資産	9,588	9,818	2.4 %
負債合計	44,427	45,138	1.6 %
保険契約準備金	26,774	28,507	6.5 %
うち支払備金	3,532	4,307	21.9 %
うち責任準備金	23,242	24,199	4.1 %
社債	10,000	5,000	△ 50.0 %
その他負債	7,653	11,631	52.0 %
うち借入金	115	5,108	4,337.8 %
純資産合計	28,066	28,339	1.0 %
株主資本	30,132	29,922	△ 0.7 %
評価・換算差額等	△ 1,916	△ 1,433	— %
その他	△ 149	△ 149	— %
負債・純資産合計	72,494	73,478	1.4 %

② 重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用・その他）
2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業）
3. トピックス



1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用・その他）



保険事業

新規・保有契約の状況

新規契約獲得件数は、四半期単位6.7万件で高水準を維持
25年12月末の保有契約件数は137万件を突破

アクサダイレクトからの 契約移管が完了

24年12月より移管が開始され、25年11月完了。

決算期	移管契約数	移管手数料
25年3月期	約1.1万件(実績)	約5.5億円(実績)
26年3月期 1Q	約0.8万件(実績)	約4.0億円(実績)
26年3月期 2Q	約0.9万件(実績)	約4.5億円(実績)
26年3月期 3Q	約0.5万件(実績)	約2.7億円(実績)

商品・サービスの拡大

「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、
継続率は88.4%と安定して高いレベルで推移

資産運用

柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成

インカム収益を着実に積み上げながら、当初計画を上回る資産運用益を確保

その他

「従業員一人一特許戦略」の推進 25年12月末 発明者数153名

【分野別 特許件数】※25年12月末時点

	画像認識 AI	遺伝子 フード・ 腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許 件数	10	10	2	3	25

2. 重点施策の進捗状況 (シナジー創出事業①)



産まれる前から

日々の暮らし

治らないを治す

川 上

川 中

川 下

ブリーディングサポートの強化

動物愛護法の改正も踏まえ
各施策を強力に推進中

マッチングサービス事業の強化

『みんなのブリーダー』『みんなの子猫ブリーダー』

SNS活動を重点強化中

Instagram：直近一年でフォロワー数が倍の2万人に

TikTok：10月より運用開始

マッチングサービス事業 25年度3Q業績

- 売上高：1,710百万円(前年度 1,663百万円)
- 経常利益：106百万円(前年度 220百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

成約数は計画通り推移するも、競合対応などによるWEB広告費の増加や、成約単価の微減により、利益は前年より減少

健診+口腔・腸内ケア商材の拡販

「どうぶつ健活」を通じた各種ケア商材の
試食会・勉強会を全国拠点にて開催



健康イノベーション事業 25年度3Q業績

- 売上高：415百万円(前年度 248百万円)
- 経常利益：△246百万円(前年度 △121百万円)

注)売上高は外部売上

新商品の投入に遅れが生じつつも、売上は拡大。引き続き対面販促による継続的な購買顧客獲得に注力

動物医療関連 (予防～一般・高度医療)

『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』
高度獣医療を提供する診療体制が本格稼働



動物病院運営事業 25年度3Q業績

- 売上高：1,812百万円(前年度 1,683百万円)
- 経常利益：△411百万円(前年度 39百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

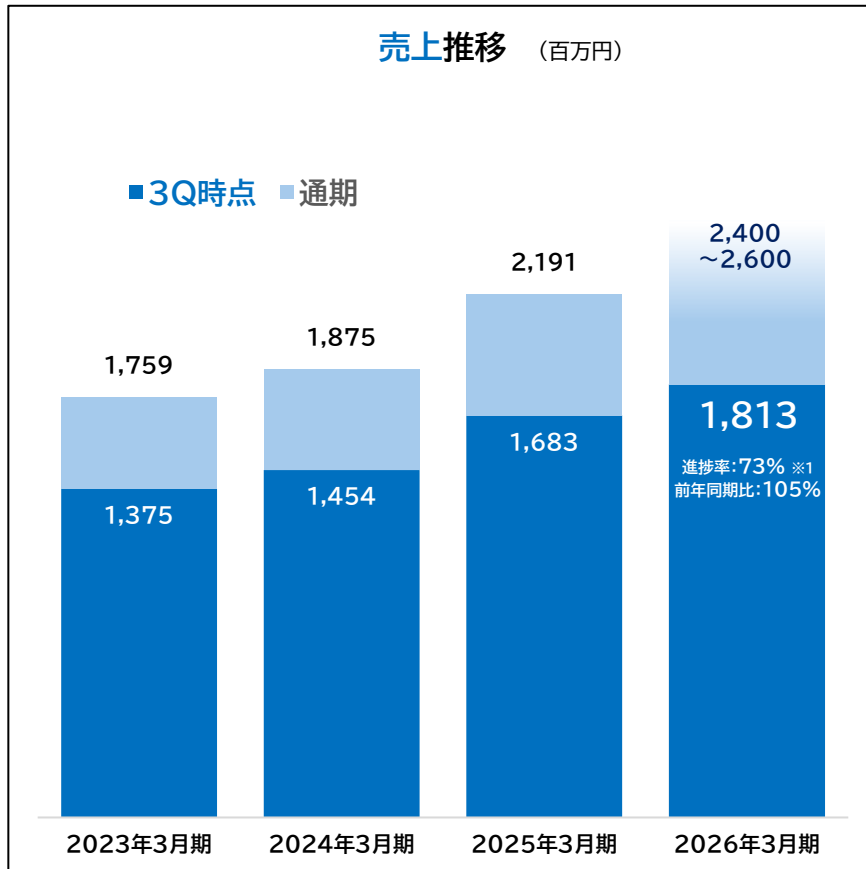
JARVIS Tokyo開業により売上は伸長、減価償却などで費用は増加。



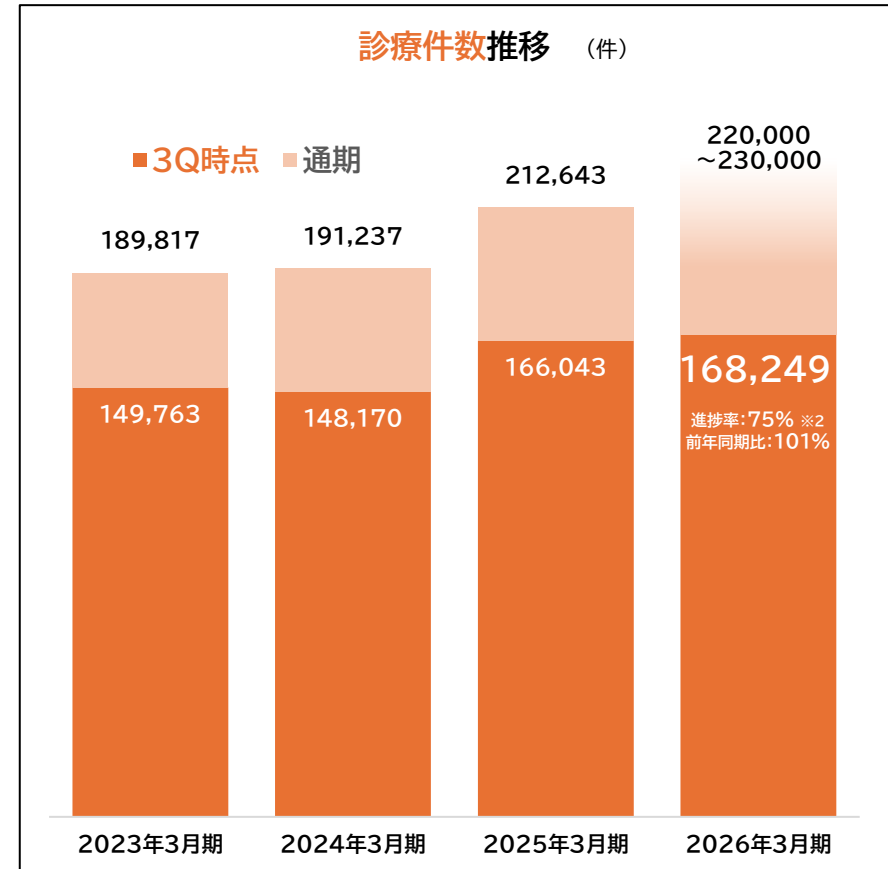
2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業②）

●動物病院運営事業主要KPI

25年10月より開業した「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」が好調。
組織リソースを投下し、売上の大きな底上げを見込む。



※1 通期の売上見込みを2,500百万円として算出



※2 通期の診療件数見込みを225,000件として算出



2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業②）

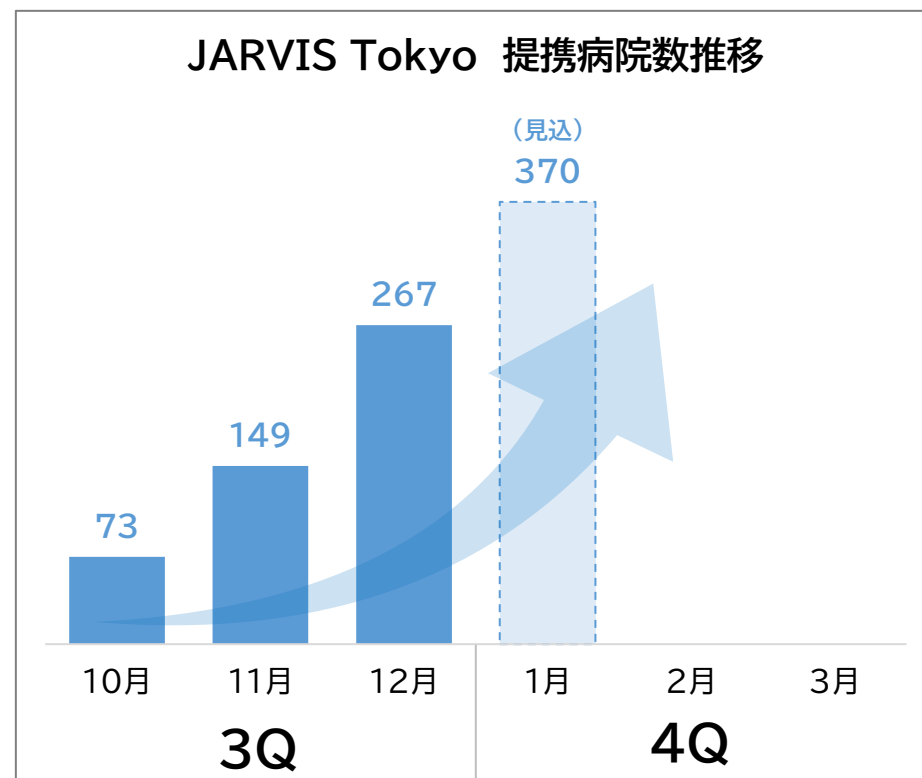
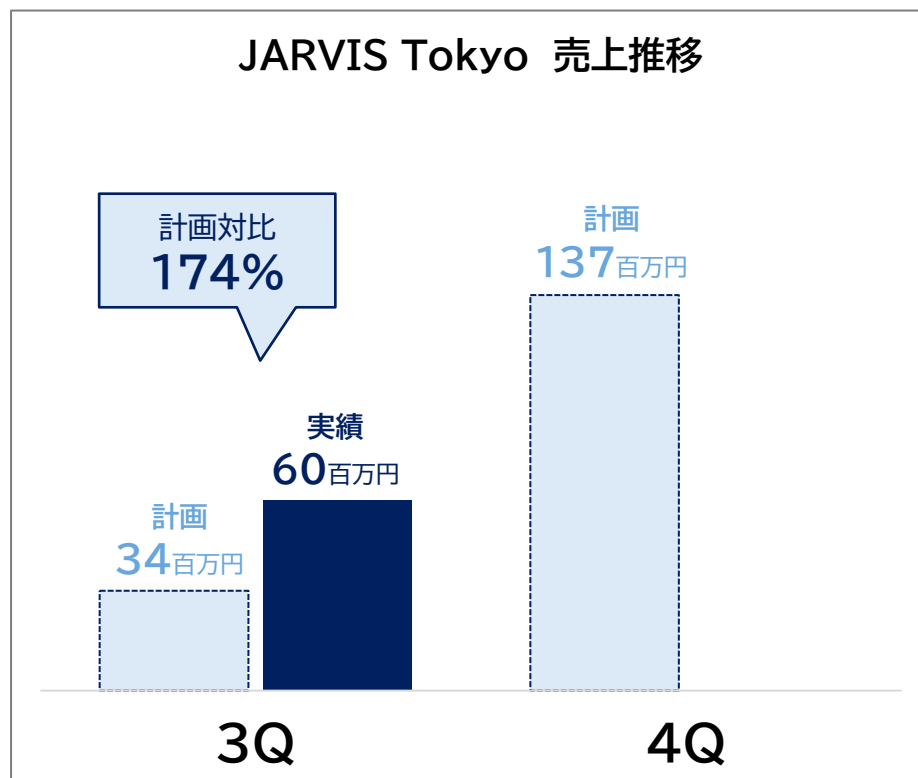
●JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo

高度医療の需要が堅調。第3四半期時点で、計画に対し**174%**で進捗。

提携病院拡大によるさらなる成長を見込む。

※詳細については、2026年1月9日付リリースを参照

<https://www.anicom.co.jp/news-release/2025/20260109/>

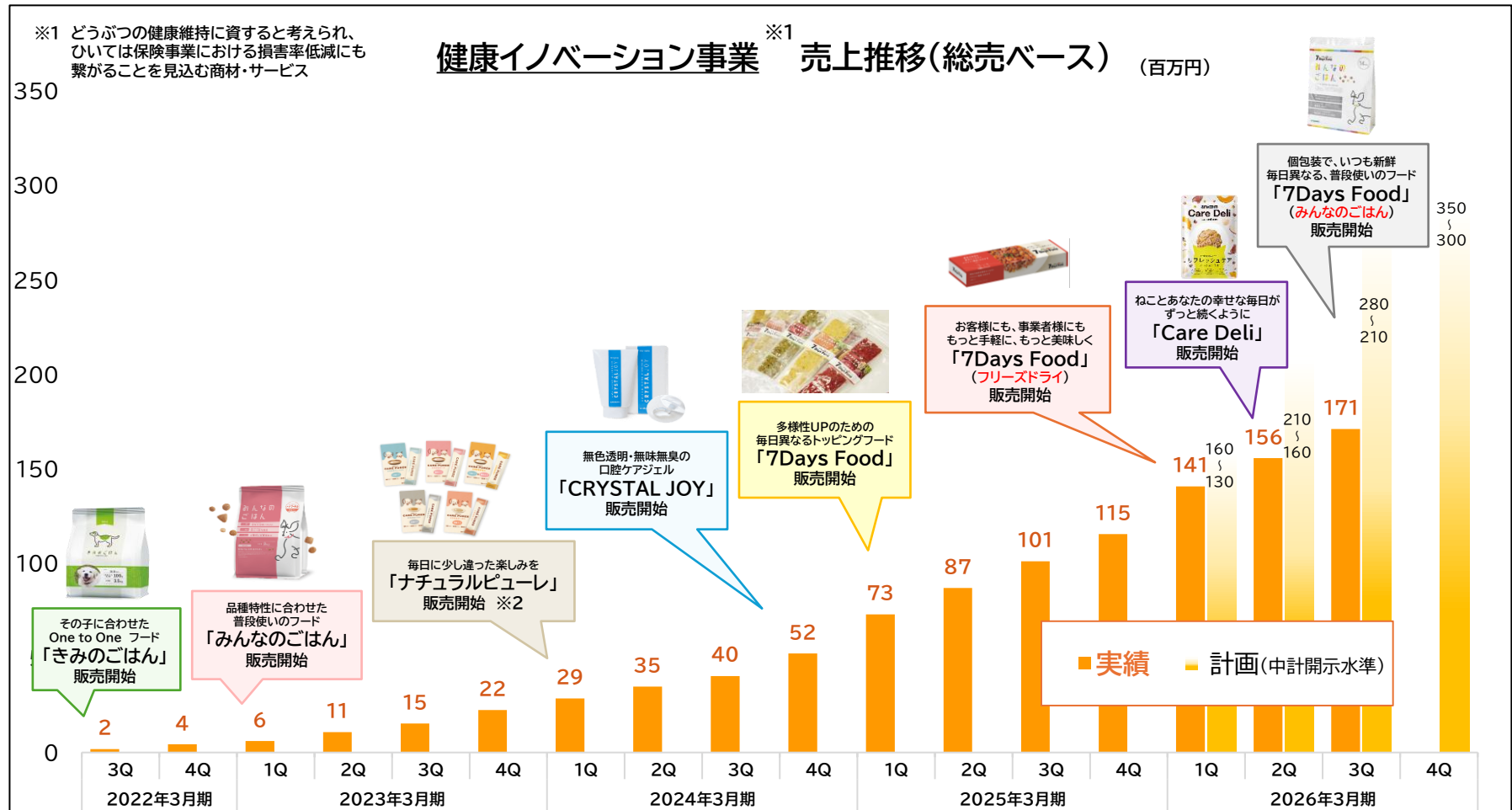




2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業②）

●健康イノベーション事業主要KPI

各商材の売上が堅調に伸長するも、計画対比はビハインドしている状況。25年12月末より主食用フードである「7Days Food(みんなのごはん)」を販売開始し、今後の売上拡大を見込む。



※2 現在は販売終了しており、「CARE PUREE」としてリニューアル。

3. トピックス① 「どうぶつ健保」のブランド価値向上



ソニー損保と共同でペット保険の販売開始

11月より、ソニー損害保険株式会社と共同でペット保険の販売を開始。ペット保険の普及率向上を目指す。

ソニー損保	どうぶつ健康保険証	Health Insurance Card
契約者名	安心 優子様	<div>通院</div> <div>入院</div> <div>手術</div>
被保険者名	契約者と同じ	
保険期間	2025年8月4日～2026年8月3日	
窓口精算期間	2025年9月3日～2026年8月3日	
どうぶつ名	ソラ	
種類/品種	犬/柴(豆柴含む)	
証券番号	R 0000 0001 1	
生年月日	2024 1101	
特記事項	見本	

■ サービス情報

ソニー損保が幹事保険会社、アニコム損保が非幹事保険会社として、ソニー損保がお客さまに保険商品のご案内を、アニコム損保は業務代理・事務代行会社として行う。

▶11月4日付ニュースリリース

<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2025/20251104/>

疫学データ集『家庭どうぶつ白書』公開

疫学データに加え、口腔・腸内細菌やイエネコなどの研究、高度医療センター開院といった取り組みも掲載。



■ 『家庭どうぶつ白書』に込めた想い

どうぶつたちと人間の言葉で会話をすることは叶いませんが、データを通じて理解を深め、健康を守りたい。そんな想いで制作しています。

▶12月17日付ニュースリリース

<https://www.anicom.co.jp/news-release/2025/20251217/>



3. トピックス② 最先端高度医療の取り組み

『JARVIS Tokyo保護犬・保護猫プロジェクト』

12月より、遺伝性疾患等が疑われる保護犬・猫を対象に、遺伝性疾患等への診断・治療・研究・支援を実施。



■ プロジェクト概要

- ・対象：遺伝性疾患や先天奇形等が疑われる保護犬・保護猫と飼い主さま
- ・対象疾患の具体例：先天性心疾患、整形外科疾患（骨・関節異常）等
- ・提供内容：検査費・治療費のご支援（減額）

▶12月18日付ニュースリリース

<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2025/20251218/>

『JARVISどうぶつ医療センターTokyo』夜間救急

11月より、夜間救急診療を開始。時間を問わず、どうぶつと飼い主さまに寄り添う医療体制を目指す。



■ 夜間救急について

「異物誤飲」など、どうぶつの急変は時間を問わず発生します。ヒトのように救急車がないからこそ、夜間でもすぐに頼れる医療体制は、安心を支える存在です。

▶11月6日付ニュースリリース

<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2025/20251106/>

3. トピックス③ 予防型保険実現のための健康ケア



犬用フード「7DaysFoodみんなのごはん」新発売

愛犬用おやつ定期便「anicoMarche」開始

複数の原材料を使用した7レシピを楽しめるドライフード。季節や旬に合わせた愛犬用おやつを毎月お届け。おやつ食べ飽き防止、無理なく続けられる健康管理を実現。つ選びの負担を減らし、愛犬との楽しい時間を創出。



■ サービス情報

サービス名:「7Days(セブンデイズ)みんなのごはん」
内容:犬用ドライフード100g×7袋

▶anicom select

<https://ani-select.anicomarche.com/products/7days-gohan>

■ サービス情報

サービス名:「anicoMarche(アニコマルシェ)」
発送頻度:月1回 内容:犬用おやつ6種類

▶10月2日付ニュースリリース

https://www.anicom-pafe.com/tands/tands_20251002.html

3. トピックス④ 社会貢献活動への取り組み



IFAW(国際動物福祉基金)の活動報告にて紹介

災害時のどうぶつ支援として、IFAWへの募金を実施。取り組みが評価され、ニュースレターで紹介された。

Donor Spotlight

Anicom Holdings, Inc.



Photo: IFAW

Anicom believes this outstanding response reflects the deep compassion of their customer base, who want to support both people and animals affected by conflicts like this. During a disaster, many people choose to stay behind with their pets instead of evacuating, even when doing so puts their own lives at risk. This reflects the growing importance of companion animals in people's lives and Anicom's motivation to support our disaster response and resiliency projects.

In addition to Ukraine, Anicom has generously provided support towards our rescue and recovery efforts following natural disasters in Turkey, Syria, Morocco, Libya, Taiwan, and Los Angeles.

Anicom tells us they have received numerous warm messages when updates about their gift are shared with their stakeholders including, "When I want to do something for animals in times of crisis, I trust Anicom."

IFAW is extraordinarily grateful for the support of Anicom and the countless people who have thoughtfully opened their hearts to touch thousands of animals across the world.

IFAW and Anicom first connected in 2022 to bring relief to animals suffering from the war in Ukraine. Approximately 10,000 people rushed to donate to Anicom's Ukraine Pet Rescue Fund that helped support veterinary medical care for more than 17,000 pets in Ukraine.

For Anicom Holdings, a pet-sector group best known for pet insurance, "kindness towards animals knows no borders." Based in Tokyo, Japan, Anicom has generously granted IFAW funds to help animals and people recover from natural and human-caused disasters.

IFAW responder after an earthquake struck Taiwan.

▲Insider Update 2nd Edition 2025より(©IFAW)

▶10月7日付ニュースリリース

<https://www.anicom.co.jp/news-release/2025/20251007/>

川崎市愛護センターにて防災セミナーを実施

川崎市動物愛護センターより依頼を受け、6月および12月に、防災啓発セミナーを実施。



災害時に役立つ首輪の手作り体験を実施 ▶

PAW(Project Animal Welfare)とは



“どうぶつを幸せにしたい”という有志社員により2012年に結成。「動物の尊厳」を軸に、CSR全般の実働部隊を担っています。

3. トピックス⑤ 資本政策・株主還元



自己株式の取得状況

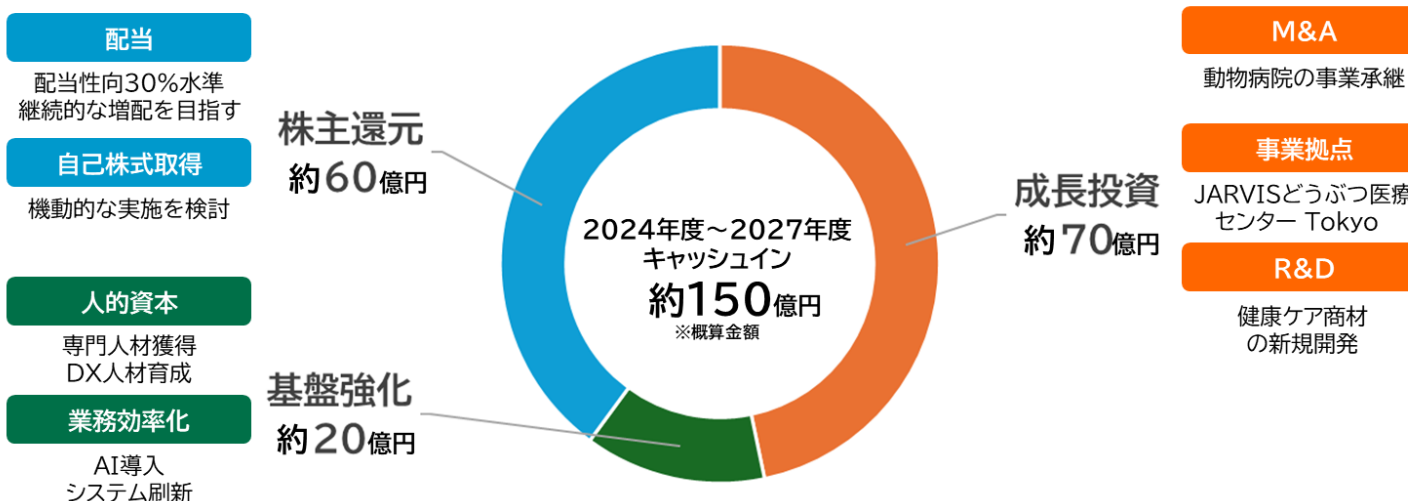
■ 概要

- ・ 2025年5月9日、10億円(2百万株)を上限とする自己株式取得の実施を決定
- ・ 2025年9月22日の買い付けで、約10億円の取得を終了

■ 中期経営計画 資本政策方針

ESRを適正水準に保ちつつ、『成長投資』、『基盤強化』、『株主還元』の最適なバランスを目指す

キャッシュアロケーション



【ESRの影響】

- ・ 責任準備金などの資産および負債を、経済価値ベースで評価する新たな法規制
- ・ 従来の「その他保険」から、リスク係数の低い「ペット保険」への区分変更
- ・ 余剰資本の活用を検討

3 APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ (ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ (損害率(E/I)、既経過保険料ベース事業費率)





1. 主要経営パラメータ

	25年3月期 3Q	25年3月期末	26年3月期 3Q	対前年同期比		対前期末比		26年3月期末 (5月9日予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	1,260,176 件	1,287,923 件	1,374,230 件	114,054 件	9.1 %	86,307 件	6.7 %	1,390,000 件
② 新規契約数	178,908 件	245,771 件	206,242 件	27,334 件	15.3 %	-	-	280,000 件
③ 継続率	88.1 %	88.2 %	88.4 %	-	-	-	-	88.2 %
④ 保険金支払件数	3,468 千件	4,564 千件	3,664 千件	196 千件	5.7 %	-	-	4,804 千件

	25年3月期 3Q	26年3月期 3Q	対前年同期比 増減	26年3月期末 (5月9日予想)
⑤ E/I損害率	61.6 %	62.9%	1.3 pt	61.1 %
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	31.9 %	33.9%	2.0 pt	33.6 %
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	93.5 %	96.8%	3.3 pt	94.7 %

	25年3月期末	26年3月期 3Q	対前期末比 増減
⑧ 単体ソルベンシー・マージン比率	345.2 %	349.8 %	4.6 pt

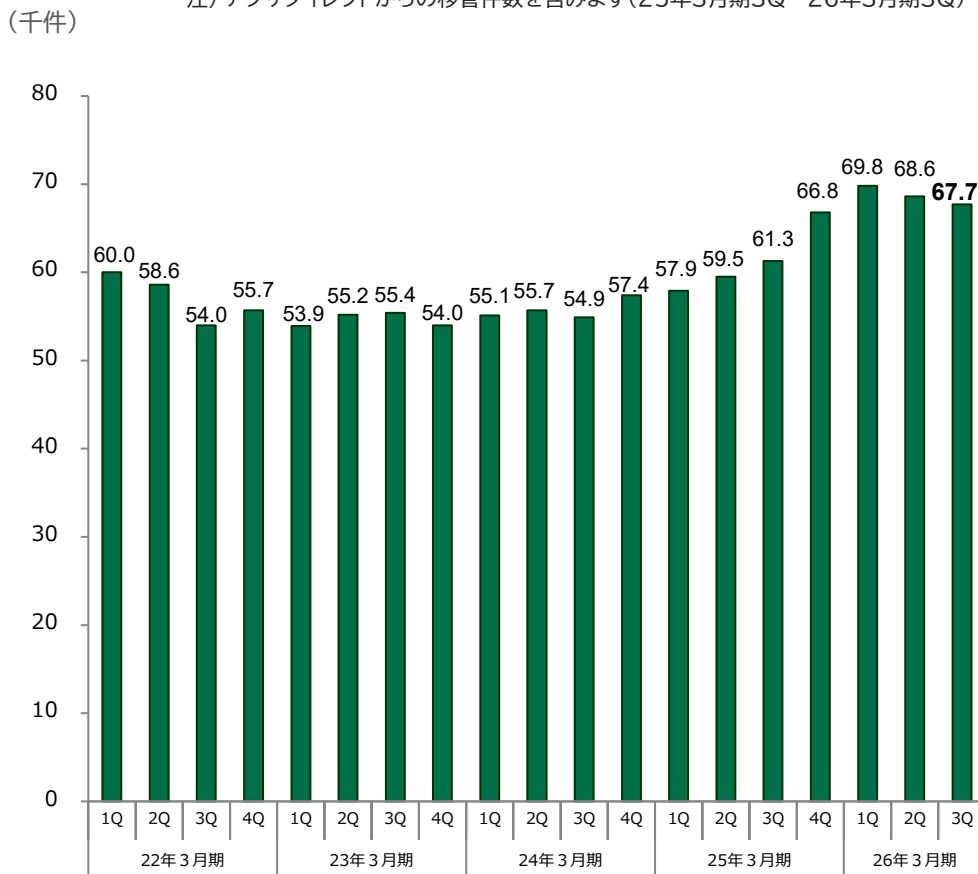
	25年3月期 3Q	26年3月期 3Q	対前年同期比 増減
⑨ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	177,241 件	192,546 件	8.6 %
⑩ 対応動物病院数	6,935 病院	7,016 病院	1.2 %

2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

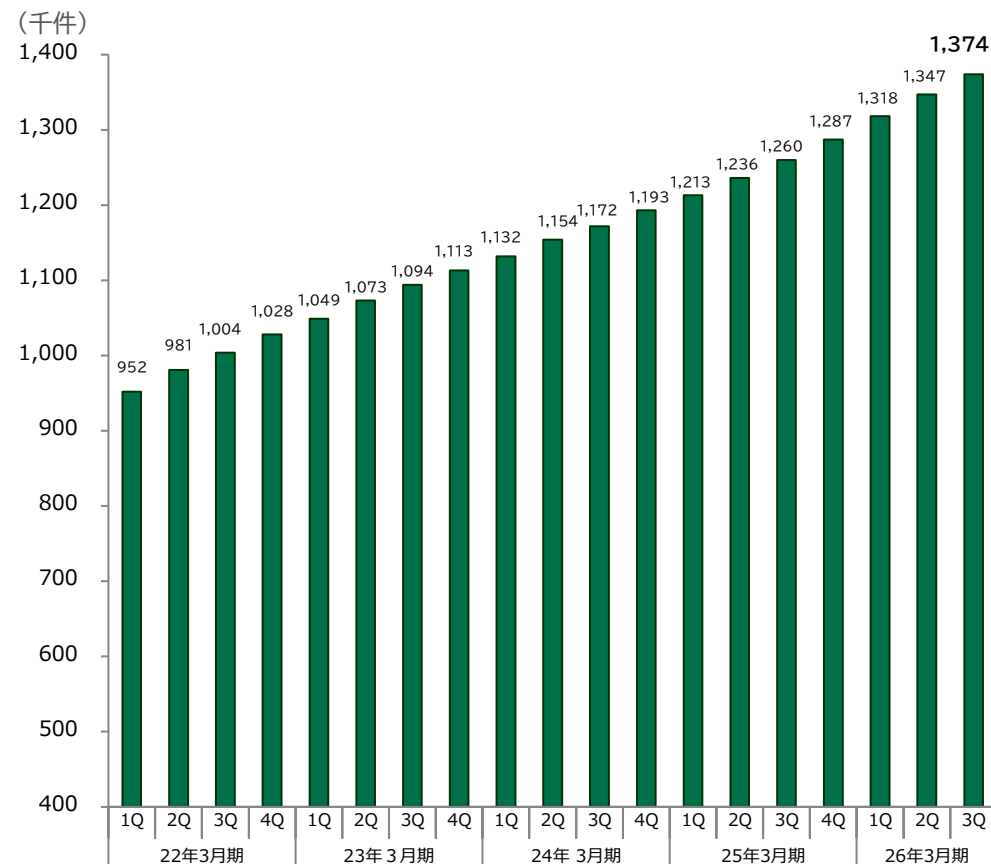


新規契約獲得件数の四半期推移

注) アクサダイレクトからの移管件数を含みます(25年3月期3Q~26年3月期3Q)



保有契約件数の四半期推移



3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

決算概要

進捗状況

APPENDIX



【参考情報】

15年3月期 1Q

■保険料改定
・平均12%の改定

15年3月期 3Q

■限度日数付き新商品
■健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

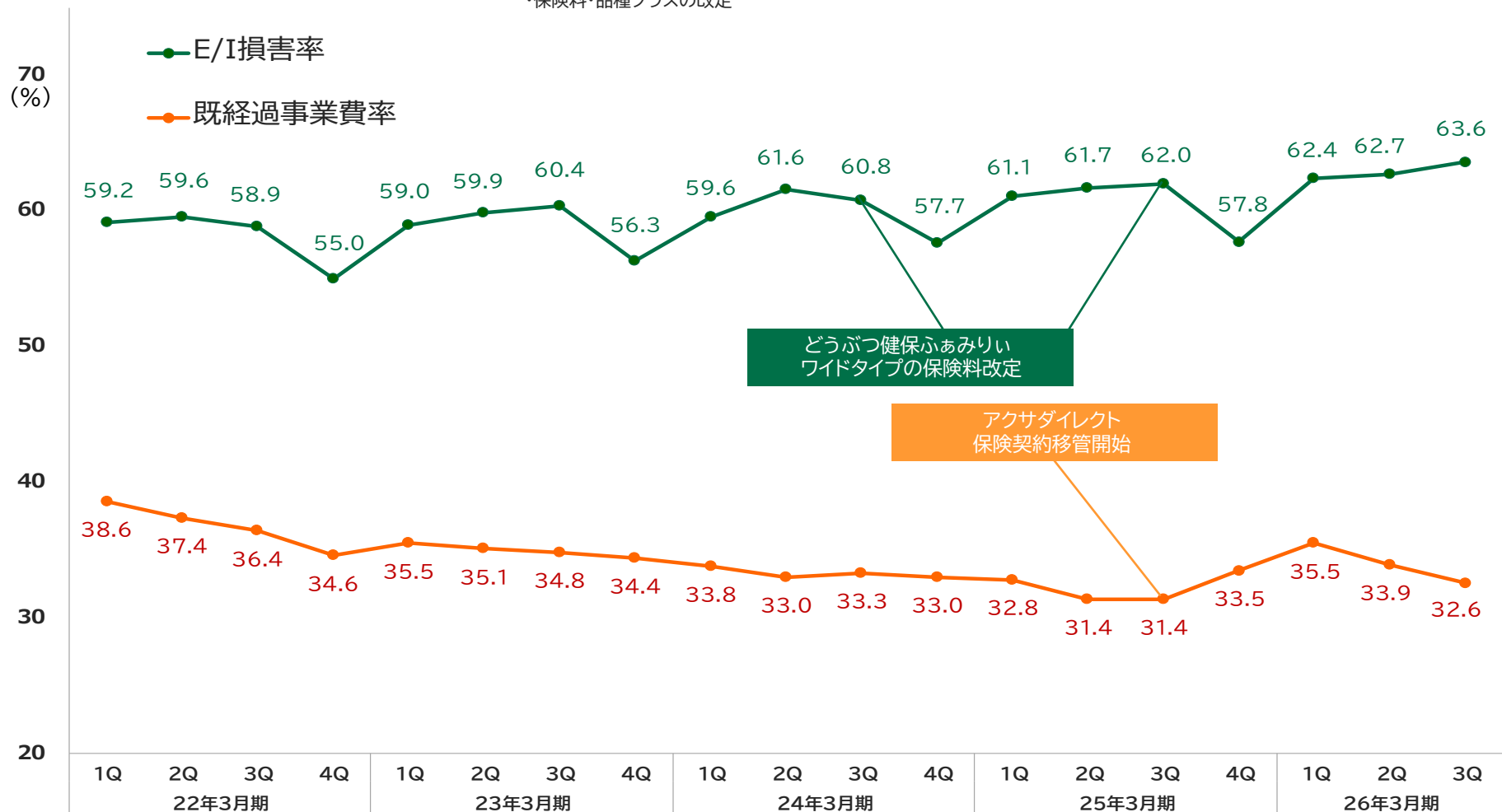
■保険料率改定
・8歳以上の保険料改定

19年3月期 3Q

■「どうぶつ健活」の導入
■保険料改定
・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。

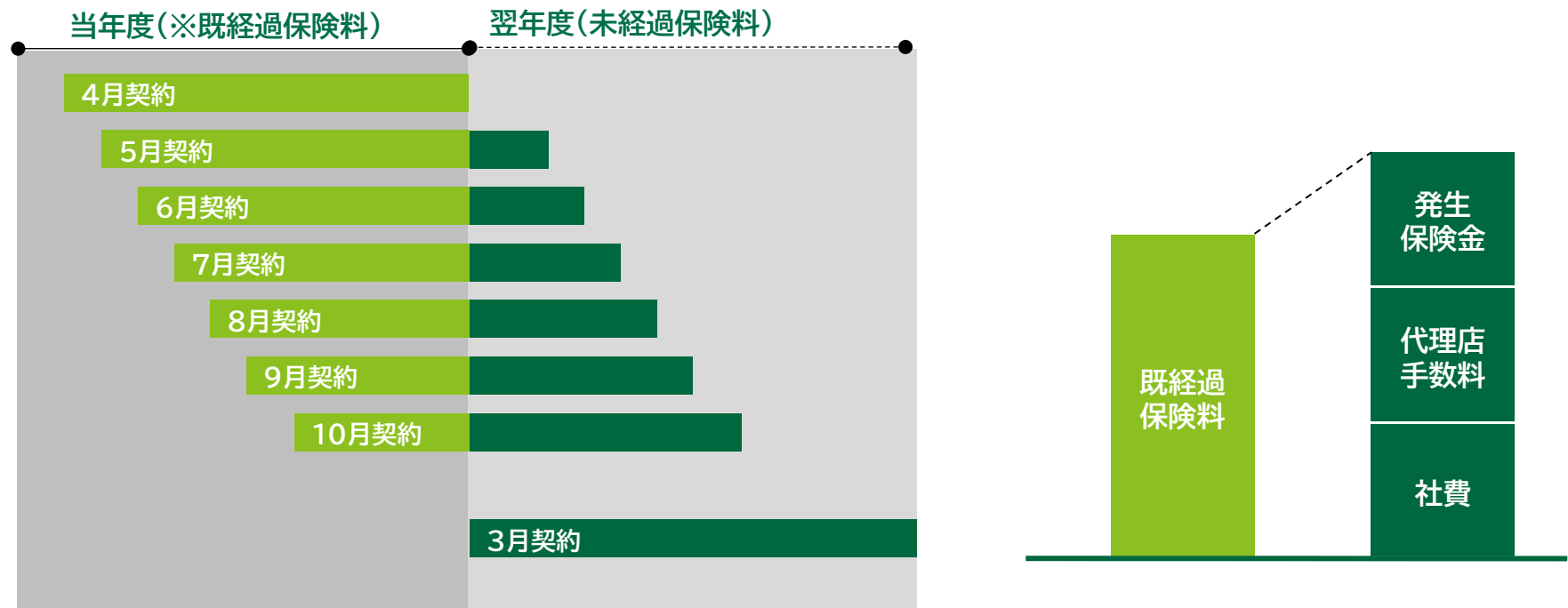




(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。

・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。